

## ＜日本史探究⑱＞

## 飛鳥時代①

教科書: P.33~P.34

⑦ 6c 中期の政治体制

＜1.＞（＜<sup>あんかん</sup>安閑・<sup>せんか</sup>宣化天皇が対立する西朝分立から統一）

(2) 年 仏教伝来 (← (3) ) の聖明王 → 1人) = 戊午説

『上宮聖徳法王帝説』『光興寺縁起』

540年 <4. >が加耶問題で失脚←(17)

(5. )年 仏教伝来 (by 『日本書紀』) = 壬申説

→ 仏教受容について大臣の(6. )と大連の(7. )が対立

賛成  $< 8$ .  $>$  vs 反対  $< 9$ .  $>$  (景公論争)

(10. )年 (11. )が(12. )諸国を滅ぼす

→ ヤマト政権の利権は消滅

① 562  
忘れた頃に加耶滅亡

問(1) 仏教伝来のとき、旧勢力と結び、伝統を重んじる排仏派の(A)と渡来人と結び仏教の受容に積極的な崇仏派の(B)が対立した。

A: ( ) B: ( )

問(2) 562年までに新羅の支配下に入った国は？ ( )

## 2 6c後期の政治体制

⑩「馬子、守屋を滅ぼしに Go<sup>5 8 7</sup>やな!

①(13.) 年に用明天皇<sup>よめい</sup>が亡くなると、次の天皇を誰にするかで蘇我氏と物部氏対立

→ 8の子の  $<14$   $>$  が、9の子の  $<15$   $>$  を攻め滅ぼした。

→ 1の皇子で母は8の娘である <16. >を14は擁立した。

蘇我氏は三蔵<sup>みつぞう</sup>〔斎蔵<sup>さいぞう</sup>・内蔵<sup>うちぞう</sup>・大蔵<sup>おほぞう</sup>〕の管理を担当し、財政権を掌握していた。

②しかし、16は14と対立し、(17.)年に14の配下の東漢直駒に暗殺される...

→ 蘇我氏と血縁関係の深い **＜18＞** が即位し、**伊賀**は権力を強める

④ 初の女性天皇

☆18のもとで16と共に甥の＜19.＞が政務を遂行！（摂政）

②〇「馬子、崇峻天皇殺して、地獄<sup>59,2</sup>に行く」

問(1) 587年、(C)は仏教の受容を巡って対立していた(D)を滅ぼし、(E)天皇を擁立し、権力を握った。C:( ) D:( ) E:( )

問(2)日本で初めての女性天皇は？ ( )天皇

### 3 推古天皇の治世

<16. >の暗殺後、女帝の <18. >が即位した。18は593年に甥の <19. >に政務を代行させ、豪族の <14. >と共同で国政改革を行わせた。

—(20. )年 (21. )を制定 ㊦「<sup>60</sup>群<sup>3</sup>れ<sup>12</sup>見<sup>ニ</sup>て数えて12匹」—

① 今まで一族単位で与えていた冠位[身分]を、才能や功績に応じて個人に与えるようにし、**昇進も可能**だった! ※氏姓制度は廃止されていない

② 21とは、(22. )の6種をそれぞれ大小に分けたもの!

—(23. )年 (24. )を制定 ㊦「<sup>60</sup>群<sup>4</sup>れて<sup>17</sup>寄<sup>テ</sup>て17人」—

① 儒教・仏教・法家思想をもりこみ、(25. )を示した!

② 「二に<sup>ヨ</sup>白<sup>ク</sup>、<sup>アツ</sup>驚<sup>ク</sup> (26. )を敬へ。26とは (27. )なり。…」

「三に<sup>みことのり</sup>曰<sup>ク</sup>、<sup>うけたまは</sup>詔<sup>ヲ</sup>を承<sup>リ</sup>て必<sup>ズ</sup>謹<sup>シ</sup>め。(28. )をば<sup>あめ</sup>則<sup>チ</sup>ち天とす、(29. )をば<sup>つち</sup>則<sup>チ</sup>ち地とす  
→「天皇の命令が出たらちゃんと守りなさい、天皇は天で、臣下は地だ」←天皇が一番!

問(1) 推古天皇のもとで、皇族の(F)と豪族の(G)は共に政権を握った。

F:( ) G:( )

問(2) (1)のFらは、603年に(H)を、604年に(I)を定めた。

H:( ) I:( )

### 4 中国との交渉

㊦「<sup>5</sup>ゴ<sup>89</sup>りや<sup>7</sup>くは<sup>隋</sup>ずいがんあった」  
581年に北朝からあこる

—(30. )年に (31. )が中国を統一 → 18は (32. )を派遣—

① (33. )年の派遣: 中国の (34. )に記載あり←日本側ナシ

② (35. )年 <36. >を31の皇帝 <37. >に派遣!

→ (38. )を要求し、37が激怒するも、(39. )と交戦中だったため、日本との国交を重視し、翌年答礼使として <40. >派遣

③ 608年 40の帰国に伴い、36が再度航 ㊦「<sup>60</sup>無<sup>7</sup>れ<sup>ナ</sup>手紙に怒る煬帝」

→ 留学生として <41. >が、留学僧として <42. >と

<43. >らも同行した! ←後に大きな役割を果たすことに…!

④ 614年 最後の32として <44. >が派遣された。